

(国語)

「基礎・基本となる言葉の力を育成する」  
～読むことと表現活動の指導を通して～

大阪市立榎本小学校 研修部

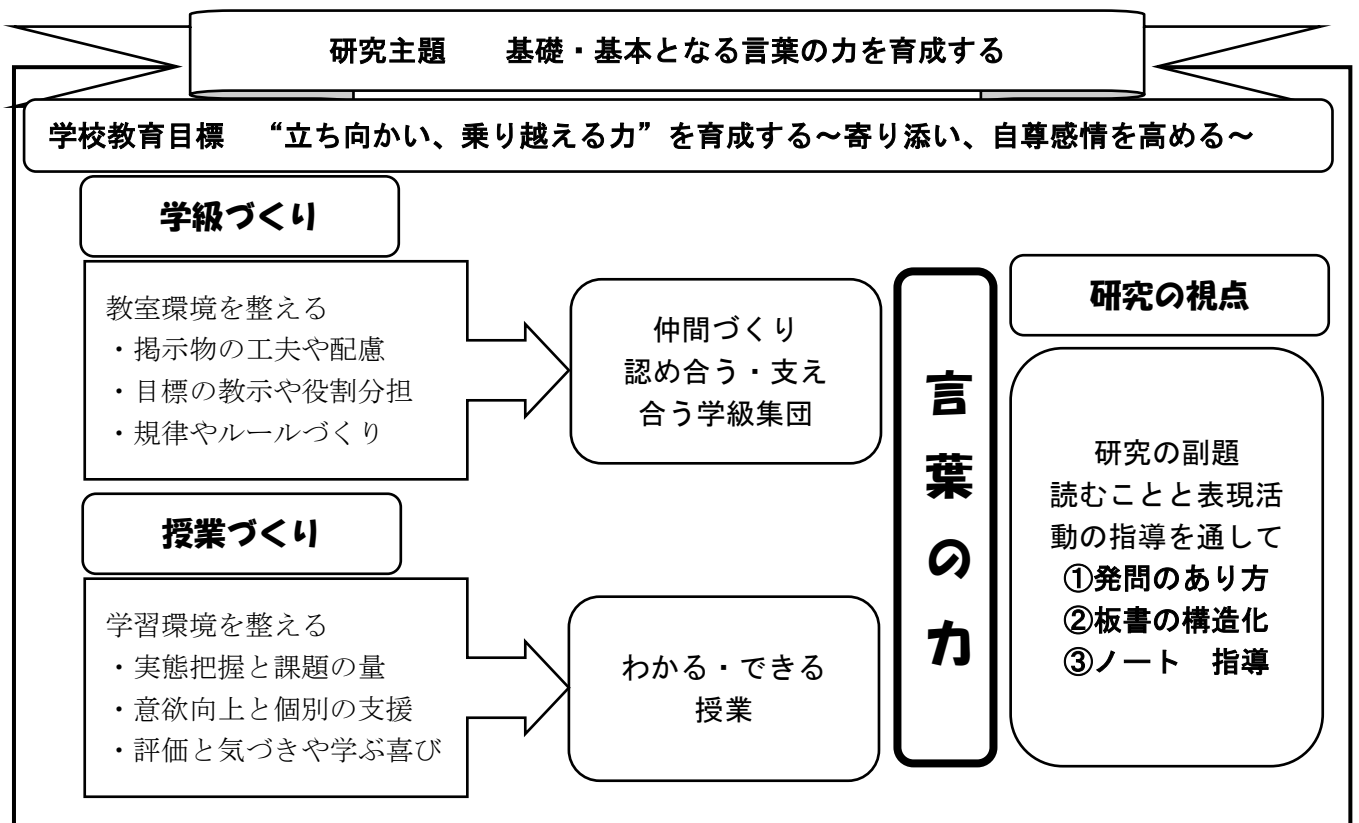
1. 研究主題設定の理由

平成27年度より国語科に焦点を絞り、国語科授業におけるユニバーサルデザインの探究を研究の柱として研究活動を推進してきた。3年にわたる研究活動の中で、指導者が焦点化（シンプルに）を意識することによって、子どもたちが学習目標と学習方法をシンプルに理解できること、また、視覚化（ビジュアルに）を通して、イメージする力によって個々の理解を支えること等の成果を得られた。焦点化、視覚化による個別の配慮、個に特化した指導・支援を通して、児童の学習に対する参加意欲を向上させ、個々の理解度を高めることができるようになった。そこで、昨年度は、共有化（シェア）を学びの軸とすることで、話し合い活動を組織化し、個々の思いや考えを伝え合い、深め合うことのできる学習指導を構築し、「わかった、なるほど、ほんまや」を生み出すことを目指した。ペアやグループを活用した様々な場の設定や個を意識した補助教材の開発を通して、思いや考えの交流を図ることは一定できるようになってきている。しかし、「話す」「書く」といった表現力の土台となる言葉の力には個人差が大きく、十分な共有化を図ることが困難であるという課題に直面しているのが実態である。

今年度は、上記のような3年間の研究の成果と課題を踏まえて研究活動を推進していく。ユニバーサルデザインの探究を通して得ることができた“すべての子どもが参加できて、わかる・できる授業づくり”という理念を継承する。そして、これまでの研究実践を通して課題として浮かび上がってきた「基礎・基本となる言葉の力の育成」を研究主題とする。そのために、国語科（物語文教材）に焦点を絞り、「読むこと」と「表現活動」の指導法の探究を授業研究の軸とする。主題に迫る研究実践を進めることにより、「話すこと」や「書くこと」を通して、自分の思いや考えを生き生きと伝え合い、深め合うことができる子どもたちを育てていきたいと考え、研究主題を設定した。

2. 研究の概要

(1) 研究全体の構造



## (2) 研究の視点

### 研究の視点① 発問について

ねらいや活動を絞り、発問のあり方を考える。思考や指導の系統性（学習系統表）を意識したり、教材のどこが理解しにくいのか、どこに焦点を当てて交流させると考えが広がるのかを分析したりする。「だれが」「なにが」「どのように」「なぜ」変化したかを把握しておき、「場面の移り変わり」や「変化」を問うような発問で学びを深める。

平成30年度 榎本小学校 物語文学習系統表						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
音読	教材名	風のゆびんやさん	すいせんのラッパ	こわれた千の楽器	だいじょうぶ だいじょうぶ	サボテンの花／生きる
	単元の目標	言葉のまとまりに気を付けて、声に出して読む。	場面の様子を思い浮かべて音読する。	人物の様子や気持ちを想像して、音読する。	人物の思いが伝わるように音読する。	感じたことや考えたことが表れるように朗読する。
読み取る	学習用語	音読	声の大きさ・速さ	強調・間の取り方	比喩表現	朗読
	教材名	リズム 気持ちを想像して言ったこと(会話文)	お手紙	ゆうすげ村の小さな旅館	走れ	風切るつばき
	単元の目標	人物がいたことの順序やそのときの様子に気を付けて読む。	起きた出来事の読み取り、物語のしかけを見つける。	中心となる人物の気持ちの変化とその理由を考えて読む。	物語の構成をとらえ、山場で起きた変化について考える。	人物と人物の関係を手がかりに、人物の心情を考えながら読む。
	学習用語	したこと(行動描写)・様子	しかけ・比喩	心情の変化前・変化後	山場を見つける(設・展・山・結)	人物の相互関係・心情の変化
読み解く	教材名	サラダげんき	名前を見てちょうだい	サーカスのライオン	ごんぎつね	注文の多い料理店
	単元の目標	物語に出てくる人物と、その人物の行動に注意して読む。	それぞれの場面の人物の様子を想像し、音読や動作化で表す。	中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読み、感想を伝え合う。	中心となる人物と他の人物との関わりについて考え、感想を伝え合う。	物語の構成や表裏の工夫を見つけて、作品のよさを解説する。
	学習用語	場面・題名・作者 誰が・どんなことを(出来事)	場面を分ける・動作化	心内語 中心人物・気持ち(心情)	対人物・視点の転換・読後感	頓挫構造(現実→不思議→現実) 伏線(しかけ)
読書	教材名	おとうとねずみチロ	かさこじぞう	はりねずみと金貨	世界一美しいぼくの村	手塚治虫
	単元の目標	いろいろな物語を読み、人物の好きなところを紹介する。	いろいろな物語を読み、読んだ話のおもしろさを紹介する。	いろいろな国や地域の物語を読み、読んだ本のあらすじをまとめて紹介する。	つながりのある物語を読み、読んだ本を紹介し合う読書会を行う。	伝記を読んで人物の生き方について考え、読書感想文を書く。
	学習用語	人物	どんな人(人物像)・感想	あらすじ	テーマ読書・読後感	伝記・感想・仮定
表現	教材名	スイミー	ニャーゴ	モチモチの木	木電うるし	大盗いじきとがん
	単元の目標	物語の中で好きなところを選び、声に出して読む。	それぞれの場面の様子や思い浮かべて、紙芝居で発表する。	中心となる人物について考え、その人物らしさが表れるように音読発表する。	場面の様子や人物の気持ちの変化が伝わるように、音読劇をする。	表現に着目して人物の心情を伝え、朗読で表現する。
	学習用語	どこで・何を・好きなところ	時・場所・気持ちの変化	語り手・地の文・心内語 擬人法・人物像	脚本・書き・セリフ	情景描写・朗読

### 研究の視点② 板書の構造化について

新たな気づきや学びが生まれるように、板書を構造化する。

視写を取り入れた国語科の学習では、板書のあり方を工夫する。板書への視写を一文ごとに改行して板書すると次のような効果が得られると考えられる。一つの段落にいくつのセンテンス（文）があるか分かる。文には、長短があると分かる。教材文が読みやすくなり、内容が明確になる。

また、交流活動を経て学習課題に迫ることができるように、どのような過程で学習を進めているかを明確に示すことで学びを振り返ることができる。具体的には、板書の右端に「読みの課題」、その隣には学習場面の教材文の「視写」、視写して気づいたことなどの「書き足し」「書き込み」、そして、黒板中央には交流活動で出てきた「児童の思いや考え」「付け足しや意見のつながり」、左端には「課題に対するまとめ」「振り返り」のような板書計画が考えられる。

### 研究の視点③ 学習指導材の活用について

自ら学びを振り返ることができるようなノート指導を行う。

既習内容の掲示、学習用語の掲示、学習の手引き、ノートの活用等を工夫する。自分の考えをノート等へ書き、自己の課題を振り返ったり、互いに学び合ったりする態度を育てると共に学習に対する達成感や充実感を味わえるようにする。

## 3. 研究の成果と今後の課題（○成果 ●課題）

○発問を厳選したことで、学習活動が明確化された。また、初発の感想から読みの課題を設定することで、目的意識や課題意識をもって、主体的に教材文を読み進めることができた。

○板書とノートを対応させることで、書くことへの抵抗感を減らすことができた。本時の課題に関わる叙述を板書することで、どの言葉から考えたのかを明確にすることができた。

○個に応じた教具、具体物の操作、叙述を基にした動作化、図解などを取り入れることで、文章の内容を確かに読むことができた。

●自他の考えを比べ、発言を繋ぐことや考えを深めることにおいて、指導の工夫が必要である。

●音声言語を黒板やノートに文字化したり、学習を振り返る時間を確保したりして、新たな気づきが生まれるような話し合い活動を目指したい。